

<会の方向性についてこれまでの経緯> (別紙1参照)

◆2023年閉会の根拠

(京都十景の第10集の完成に合わせる)

- ①2017年4月、本会より京都十景へ運転資金100万円を貸し付け。現在の京都十景の販売状況では一括での返済は難しく、10集の完成までかかるため。

↓

2018年2月運営委員会で物納(京都十景14冊)にて相殺することを決議し、2018.7.22総会にて予算案とともに承認、解決済

- ②京都十景の挨拶文末尾に「版画京都展実行委員会」とあり第10集まで発行者として会の名前を残す必要があるため。(別紙2)

↓

京都十景を版画京都展実行委員会と分離し、発行者名を変更することは可能か。

例：京都十景制作委員会 等

<2023年より前の解散について>

◆2019年度の活動終了以降早期解散の検討

①資金面から

- ・2019.3 資金残高約198万円(ほかに図録約1800冊、京都十景14冊)
- ・年間約100万円の維持費、2020年3月末で残金約90万円
ただし2019年度にはオーストラリアお返し展の関連費用と在庫図録送料等の費用の支出予定のため予算案以上に資金はひっ迫する可能性もある。
- ・2023年度解散の場合
京都十景第10集の完成時期にもよるが、各年度約20万~30万円の予算となり活動内容は大幅な縮小。

②活動内容から

- ・2020年度以降の会の活動はJARFOでの小品展と企画展のみ。JARFO会費12万円と企画展費用で年間予算をほぼ使うこととなる。
- ・片岡さんから版画京都展実行委員会閉会后、京都版画という名称でJARFOでの小品展等の活動を引き継ぎたいとの申し出。

↓

資金の消化及び図録の処理ができた時点で臨時総会を開催し、解散する。